■ 特別講義

平成 24 年 9 月 22 日(土)　10：00 ～ 11：30　百周年時計台記念館

講義題目　「気付きを促す可視化」

講　　師　高等教育研究開発推進機構 教授　小山田 耕二

講義内容

可視化はみえないものをみえるようにすることです。

この可視化はさまざまなところで活躍しています。工場でのものづくりや検察での取り調べ、センサーによる環境計測、コンピュータによるシミュレーションなど、皆さんの想像以上に使われています。

世界最速の「京」コンピュータ等からは、爆発と表現されるほど膨大なデータが産み出されます。最先端の可視化技術は、このような膨大なデータを高速で処理し、視覚を通して人間にわかりやすく伝えることを可能にします。最近では、学習の向上にとてもたいせつな気付きをあたえるために可視化技術が使われるようになっています。

最新の可視化技術とその効能についてみんなといっしょに考えたいと思います。

プロフィール

1960 年神戸生まれ。京都大学工学部卒。工学博士。日本アイビーエム東京基礎研究所主任研究員、岩手県立大学ソフトウェア情報学部助教授を経て、現在、京都大学高等教育研究開発推進機構教授。

日本シミュレーション学会会長、可視化情報学会理事、日本学術会議連携会員。2002 年より国家プロジェクトに参加し、可視化技術を使った遠隔協調研究支援環境に関する研究開発に従事。2004 年より、学生との対話を通じて、全学共通教育において、科学的方法を体験的に学ぶ研究リテラシー入門コースを始め、2010 年より主に本学一年生が学習成果を時計台ホールで発表する全学共通教育国際学生シンポジウムを開催している。著書に、「研究ベース学習」（コロナ社）、「粒子ボリュームレンダリング」（コロナ社）、「Excel で学ぶコンピュータグラフィックス」（コロナ社）など。